

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20051

建築物名称	(仮称)宮前区宮崎台PJ
建築主	大和ハウス工業株式会社 横浜支社 執行役員支社長 齋藤 栄司
建築物の所在地	川崎市宮前区馬絹2丁目1627-1、1628-1
設計者氏名、建築士事務所名	奥村 俊慈 有限会社ケミカルデザイン 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,099.71㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了年月	令和4年5月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用、燃料系潜熱回収瞬間式給湯器
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	燃料系潜熱回収瞬間式給湯器

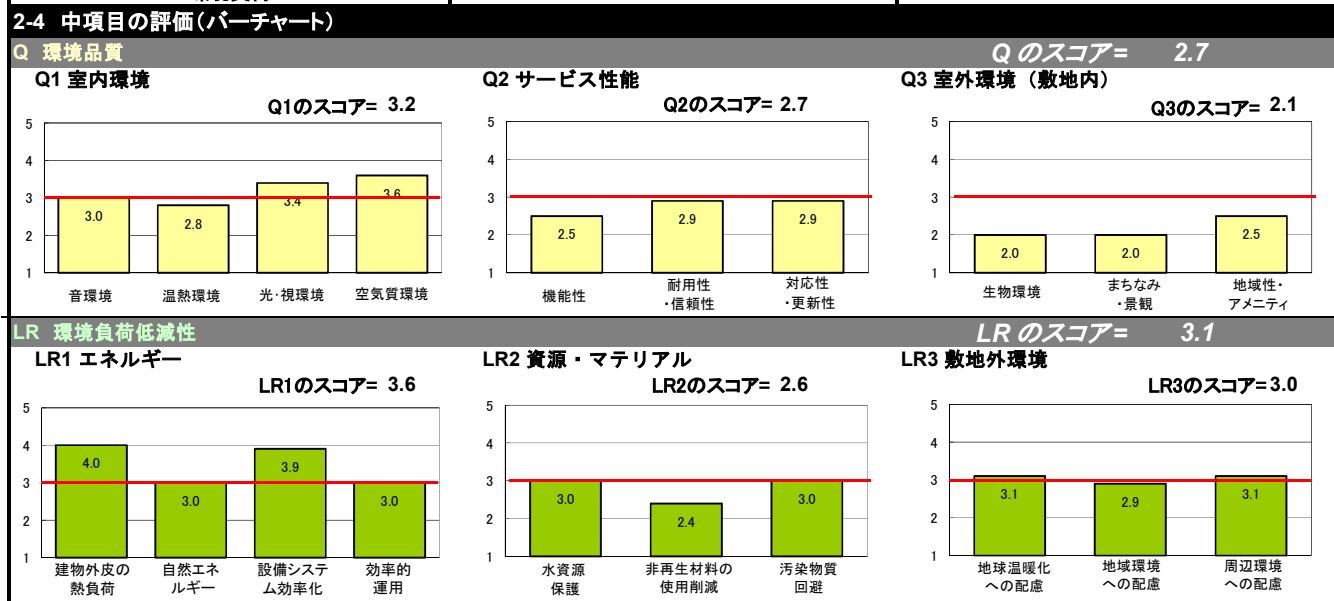
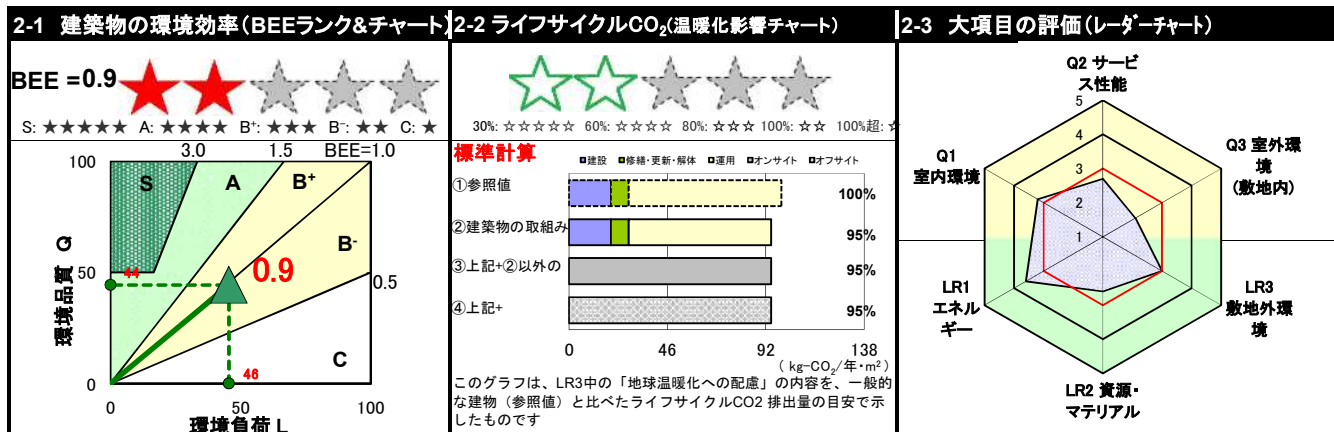
# Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.3.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		20051
建物名称	(仮称)宮前区宮崎台PJ	階数	地上5F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください
建設地	川崎市宮前区馬絹2丁目1627-1、1628-1	構造	RC造	
用途地域	近隣商業、準防火地域	平均居住人員	70人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年5月 竣工	評価の実施日	2021年2月13日	
敷地面積	989㎡	作成者	有限会社ケミカルデザイン一級建築士事務所	
建築面積	592㎡	確認日	2021年2月13日	
延床面積	2,100㎡	確認者	有限会社ケミカルデザイン一級建築士事務所	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.6</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している		
2 まちなみ・景観への配慮		1.9/4.3	2.2
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率41.89		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔指標0.43	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		1.8/2.7	3.4
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備	(居室部)庇・カーテンによりゲレア制御		
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率41.89		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型便器の採用	2.5/4.7	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5	2.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型便器の採用	2.0/4.0	2.6
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	管理車両の駐車スペースの確保	0.2/0.4	3.0
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化指針に適合している	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率41.89		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制		3.7/5.0	3.7
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄					
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>2.7</b>	
<b>Q1 室内環境</b>						0.40		-	<b>3.2</b>	
<b>1 音環境</b>					<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	
1.1 室内騒音レベル					<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1.2 遮音					<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50		
1 開口部遮音性能					<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.30		
2 界壁遮音性能					-	-	<b>3.0</b>	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	<b>3.0</b>	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	<b>3.0</b>	0.20		
1.3 吸音					-	-	-	-		
<b>2 温熱環境</b>					<b>2.2</b>	0.35	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.8</b>	
2.1 室温制御					<b>2.2</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.63		
1 室温					<b>3.0</b>	0.63	<b>3.0</b>	0.63		
2 外皮性能		W			<b>1.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	0.38		
3 ゾーン別制御性					-	-	-	-		
2.2 湿度制御					<b>1.0</b>	0.20	-	-		
2.3 空調方式					<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.38		
<b>3 光・視環境</b>					<b>2.7</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.4</b>	
3.1 昼光利用					<b>4.2</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30		
1 昼光率					共用部 ≥2.5%・居室部 ≥1.25%					
2 方位別開口					<b>5.0</b>	0.60	<b>5.0</b>	0.50		
3 昼光利用設備			W		-	-	<b>3.0</b>	0.30		
3.2 グレア対策					<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20		
1 昼光制御			W		<b>1.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.30		
3.3 照度					<b>1.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
3.4 照明制御					(居室部)庇・カーテンによりグレア制御					
1 昼光制御			W		<b>1.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
3.3 照度					<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	0.15		
3.4 照明制御					<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	0.25		
<b>4 空気質環境</b>					<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.6</b>	
4.1 発生源対策					<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63		
1 化学汚染物質					床・壁・天井・天井裏のほぼ全面に☆☆☆建材を採用					
1 化学汚染物質					<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00		
4.2 換気					<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38		
1 換気量					<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
2 自然換気性能					-	-	<b>3.0</b>	0.33		
3 取り入れ外気への配慮					<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33		
4.3 運用管理					-	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視					-	-	-	-		
2 喫煙の制御					-	-	-	-		

Q2 サービス性能					0.30	-	-	2.7	
<b>1 機能性</b>					2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>					3.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性								
2	高度情報通信設備対応				3.0		3.0	1.00	
3	バリアフリー計画				3.0	1.00			
<b>1.2 心理性・快適性</b>					1.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観						3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				1.0				
3	内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>					3.0	0.30			
1	維持管理に配慮した設計			内壁・床面に防汚性の高い建材を採用	4.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保				2.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>					2.9	0.30			2.9
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>					3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>					2.9	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R			3.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		外壁仕上げ材補修間隔:35年	2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			2.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		主要用途上位3種の2種類以上B以上使用かつEは不使用	5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20			
<b>2.4 信頼性</b>					2.8	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5	通信・情報設備				2.0	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>					3.0	0.30	2.9	1.00	2.9
<b>3.1 空間のゆとり</b>							2.8	0.50	
1	階高のゆとり			階高2.96m			4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ						1.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>					3.0		3.0	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>					3.0	1.00			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20			
2	給排水管の更新性				3.0	0.20			
3	電気配線の更新性				3.0	0.10			
4	通信配線の更新性				3.0	0.10			
5	設備機器の更新性				3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						0.30			2.1
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G	W		H		2.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G					2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>									2.5
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>									2.0
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G	W		H		3.0

LR 建築物の環境負荷低減性																				
LR1 エネルギー																				3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		W		H	等級4	4.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		W		H		3.0	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		W		H	[BEQ][BEIm] = 0.91	3.9	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.9
4 効率的運用						3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価																				
4.1 モニタリング		W		H																
4.2 運用管理体制		W		H																
集合住宅の評価						3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング		W		H		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		W		H		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル																				2.6
1 水資源保護		W	R			3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
1.1 節水						3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						2.4	0.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減		W	R			2.0	0.11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R			3.0	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R		-	3.0	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R		-	1.0	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R			3.0	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						3.0	0.70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 消火剤		W				-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		W				3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 冷媒		W				3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
LR3 数地外環境																				3.0
1 地球温暖化への配慮		W				3.1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1
2 地域環境への配慮						2.9	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W		H	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						2.7	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減					R	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					R	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 交通負荷抑制					R	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					R	2.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮						3.1	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 騒音						3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 振動						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 風害の抑制						3.0	0.70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 砂塵の抑制								-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制						3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制						3.7	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						4.0	0.70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	